

大阪産業創造館ネットモニター調査 -No.9 '13年4月期-

(ご協力いただいたモニター数: 112社、調査時期: 2013年5月16日~24日)

公益財団法人 大阪市都市型産業振興センター 経済調査室
5/28 <http://www.sansokan.jp/tyousa/> tel:06-6264-9816

《4月の景況判断に関する要点》

「回復は足踏みとなるも、見通しは明るい」

- 4月の景況(前月比)をみると、「上昇・好転」したとする回答の割合が減少して(「下降・悪化」は増加)、DI*は悪化し+3.6(図1)。前月まで2ヶ月続いた回復傾向から今月は足踏みとなるも依然プラス圏。
 - 「上昇・好転」した理由は、「内需が増大したから」が4割台半ばで最多。他方、「下降・悪化」した理由は「内需が減少したから」と「時期的、季節的な要因で」とがともに4割(図なし)。
 - 3ヵ月後(7月)の見通しでは、「上昇・好転」が4割近くを占め、DIは+24.1と6月見通しから横ばい。4月のDI(+3.6)と比べて20.7ポイント上昇(図1)。
 - 4月の前年同月比をみると、「上昇・好転」が減少して「横ばい」が増加、DIは少し下降して-5.4(図1)。
- *DI(Diffusion Index)「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

《2012年度決算の状況》

- 「黒字」とする企業が4割強、「収支トントン」が3割台半ば、「赤字」が2割強となった。従業員規模が小さい企業ほど、「黒字」とする割合が小さい。また、営業利益は業種を問わず「増加」「横ばい」「減少」ともに3割台に並んだ。従業員規模別では規模が大きくなるにつれて改善する傾向が見られる(図2)。

(裏面へ続く)

図1 景況判断

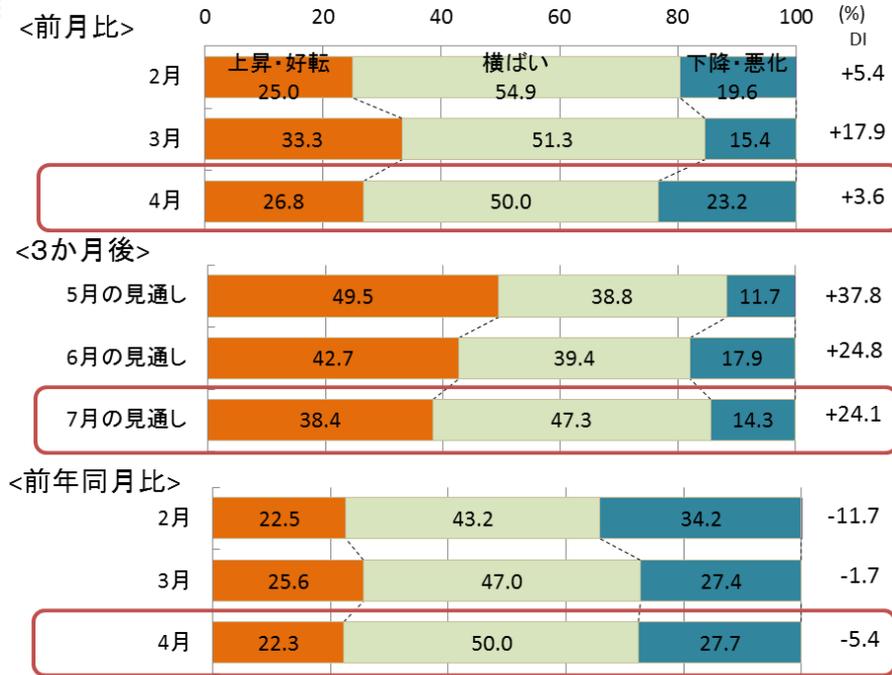
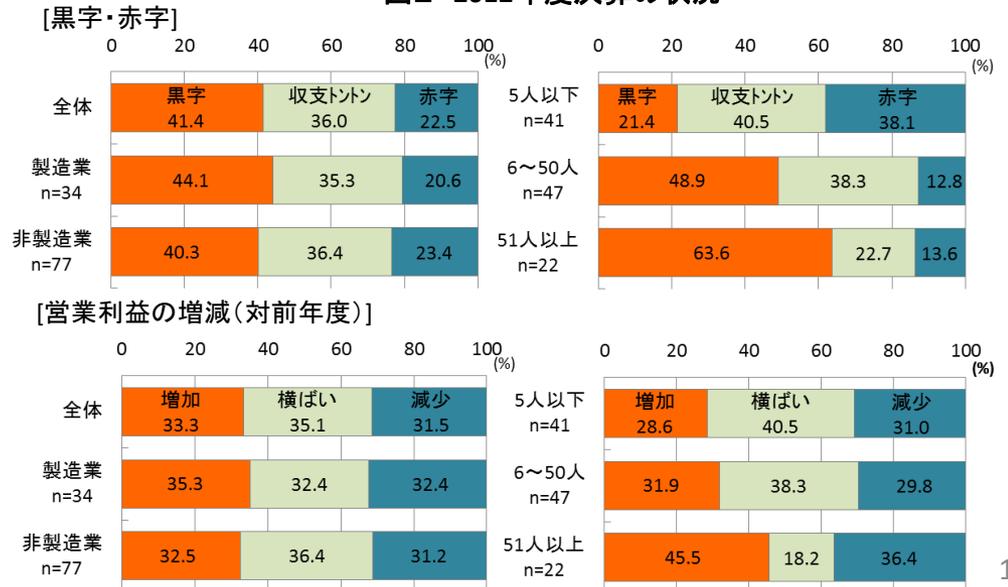


図2 2012年度決算の状況



円安の影響が広がった4-6月期(見込み)の業況について

・営業利益は、製造業では「黒字」が増加、非製造業では逆に「黒字」が減少となる見込み(図3)。

・1-3月期と比較して、製造業では売上「増加」企業が5割強、営業利益「増加」企業が4割強で、ともに「減少」を上回った。他方、非製造業では売上は「増加」と「減少」が同程度の割合なのに対して、営業利益では「減少」が「増加」を上回った(図4)。

・同じく前期比での仕入価格「上昇」割合は製造業で5割強、非製造業で3割弱。これに対して、販売単価の「上昇」割合は製造業で1割台半ば、非製造業で僅か数% (図5)。これらの結果、利幅減少となるが、製造業では、売上増により営業利益を増加させた企業が多く見られた。

・同じく前期比での海外ビジネスは、輸入関連では「減少」が「増加」を少し上回ったが、為替差益では「増加」「減少」ともに同じ割合、輸出関連では「増加」が少し上回った(図6)。

雇用に関する増減と需要

・2013年3月以降の新規雇用について、製造業では半数近くが「実施した」一方で、非製造業では3割強に留まった(図7)。前年よりも現在の従業員数が「増加」した割合は、製造業で3割強、非製造業で2割台半ば(図8)。現在の従業員数の過不足について、製造業、非製造業ともに「不足(「やや不足」と「不足」の合計)」が約4割を占め、「過剰(「やや」を含む)を上回った(図9)。これらを総合すると、製造業の方がより積極的な雇用姿勢をとっているが、依然、不足感の方が強い。他方、非製造業では消極姿勢のため、不足感が一層強くなっている。

0 20 40 60 80 100 (%)

図7 2013年3月以降の新規雇用

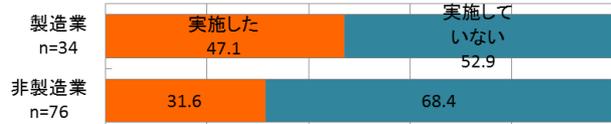


図8 現在の従業員数の増減(前年との比較)



図9 現在の従業員数の過不足

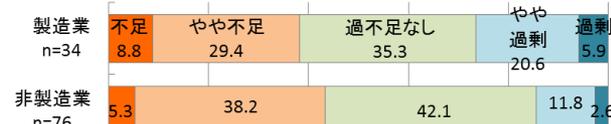
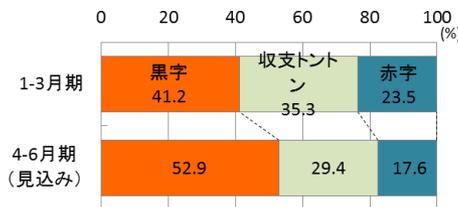


図3 1-3月期と4-6月期の営業利益

[製造業]n=34



[非製造業]n=76

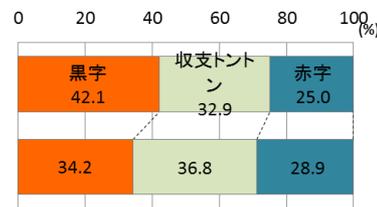


図4 4-6月期の売上と営業利益(1-3月期との比較)

[製造業]n=34



[非製造業]n=76

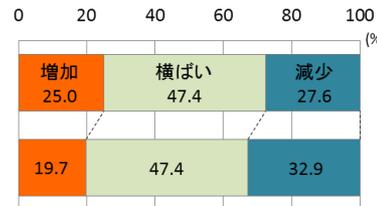
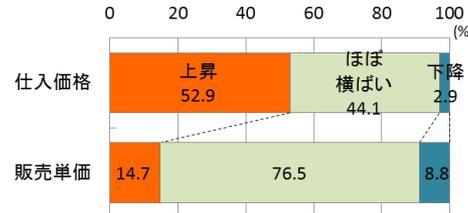


図5 4-6月期の仕入価格と販売単価(1-3月期との比較)

[製造業]n=34



[非製造業]n=76



図6 4-6月期の海外ビジネスの状況(1-3月期との比較)

0 20 40 60 80 100 (%)

